

# 令和3年度農作物病虫害発生予察注意報第2号

令和3年(2021年)10月6日  
山口県病虫害防除所

病虫害名 イチゴのハダニ類

1 発生地域 県内全域

2 発生程度 やや多

3 注意報の根拠

- (1) 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率は46.7%（平年17.5%）で、過去最高となった令和元年、令和2年と同程度であった。また、寄生株率は8.2%（平年5.1%）で、平年に比べ高い水準であった（図1、図2、図3）。
- (2) 10月の気温は平年より高いと予想されており、今後もハダニ類の多発が懸念される。
- (3) 栽培初期に防除を徹底し、ハダニ類の発生密度を低下させる必要がある。

4 防除方法

- (1) ハダニ類はほ場内で部分的に発生することがあるので、ほ場全体をよく観察し、ハダニ類の発生を認めたら直ちに防除を行う。
- (2) 薬剤防除の前には、薬剤が葉裏まで十分かかるように下葉を除去する。また、除去した下葉は、ほ場外に持ち出し適正に処分する。
- (3) 天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）を使用する場合は、天敵に影響の少ない薬剤でハダニ類の密度を低下させた後、導入する。
- (4) 気門封鎖剤を使用する場合は、その多くがハダニ類の卵には効果が低く、残効性がないため、7～10日間隔で散布する。
- (5) 防除薬剤は、表を参考に選定する。

5 防除上注意すべき事項

- (1) ナミハダニ黄緑型（図4、図5）は体色が葉色と同化して虫体が見えにくいいため注意が必要である。
- (2) 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける（表）。
- (3) 薬剤散布を行う場合は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。
- (4) 農薬使用基準を遵守し、適正な散布作業を実施する。

6 その他

「イチゴのハダニ類の発生確認および簡易薬剤検定方法」、「薬剤感受性検定の結果」は、山口県病虫害防除所ホームページを参照する。

<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a17201/nougyou/shigen/index00.html>

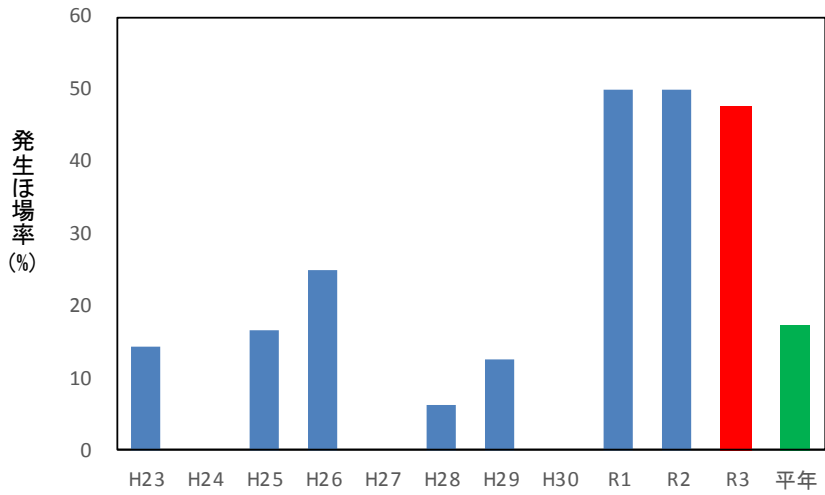


図1 発生ほ場率の年次比較(9月下旬)

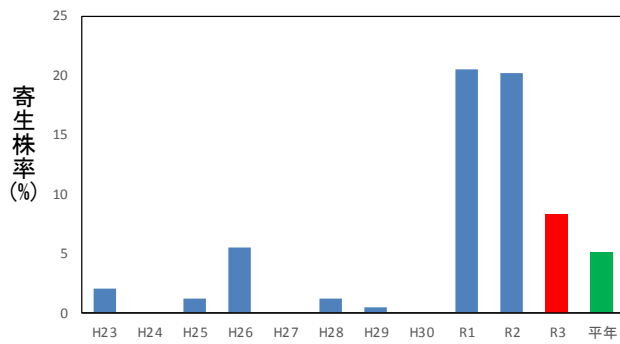


図2 寄生株率の年次比較(9月下旬)

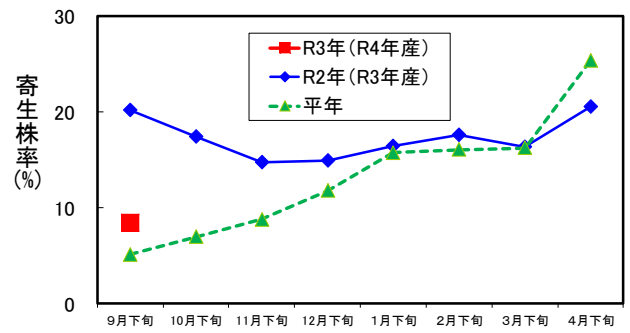


図3 寄生株率の推移

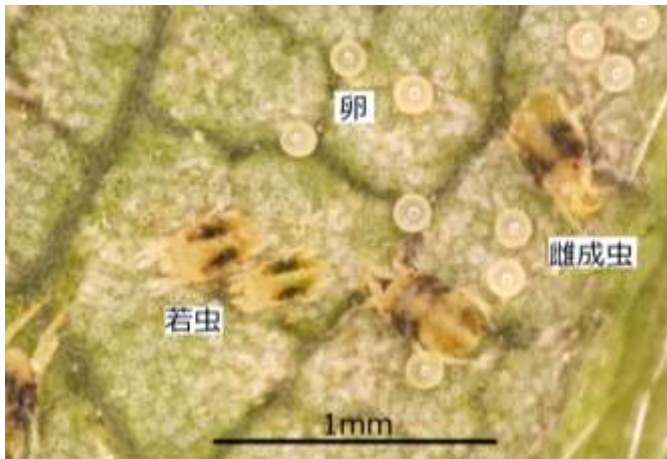


図4 ナミハダニ(黄緑型、成虫・若虫・卵)



図5 ナミハダニが多発生したイチゴの葉

表 イチゴのハダニ類に登録のある主要な農薬(野菜類での登録を含む)

令和3年10月6日現在

系統	殺虫剤コード	一般名	商品名	防除対象			希釈倍数・使用量 散布液量	使用時期 (収穫前日数)	使用回数	ミツバチの安全日数	カブリダニ類への影響
				卵	幼・若虫	成虫					
生物農薬	天敵	ミヤコカブリダニ剤 200頭/10ミリリットル	スパイカールEX(-)	○	○	○	100~300ミリリットル/10a(約2000~6000頭)	発生初期	-	○	△
		ミヤコカブリダニ剤 50頭/パック	スパイカールプラス(-)	○	○	○	40~120/パック/10a(約2000頭~6000頭/10a)				
		チリカブリダニ剤 2000頭/100ミリリットル	スパイデックス(-)	○	○	○	100~300ミリリットル/10a(約2000~6000頭)				
		チリカブリダニ剤 1000頭/250ミリリットル	チリトップ(-)	○	○	○	6000頭/10a				
一	気	マシン油乳剤 97%	トモノールS(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
			スプレーオイル(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
			アタックオイル(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
			ハーベストオイル(普)	×	○	○	200倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
		マシン油乳剤 98%	ラビサンスプレー(普)	×	○	○	100~150倍,100~300リットル/10a	-	-	翌日	△
		プロピレングリコールモノ脂肪酸エステル乳剤 70%	アカリタッチ乳剤(普)	△	○	○	1000~3000倍,100~400リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	○
		還元澱粉糖化物液剤 60%	エコピタ液剤(普)	×	○	○	100倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		脂肪酸グリセリド乳剤 90%	サンクスタル乳剤(普)	○	○	○	300~600倍,150~500リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		ソルビタン脂肪酸エステル乳剤 70%	ムシラップ(普)	×	○	○	500倍 100~300リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		ヒドロキシプロピル化リン酸架橋テンソル液剤 5%	粘着くん液剤(普)	×	○	○	100倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	-	○	△
		ポリグリセリン脂肪酸エステル乳剤 82.5%	フーモン(普)	×	○	○	1000倍,150~500リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
		調合油乳剤 97.0%	サフオイル乳剤(普)	○	○	○	300~500倍,100~500リットル/10a	収穫前日まで	-	翌日	△
有機銅	気	DBEDC乳剤 20%	サンヨール(普)	×	△	△	500倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	6回以内	○	○
ピレスロイド	3A	アクリナトリン水和剤 3%	アーデント水和剤(普)	×	○	○	1000倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	4回以内	2~3日	×
マクロライド	6	エマメクテン安息香酸塩乳剤 1%	アフファーム乳剤(普)	△	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	2~3日	×
		ミルベメクテン水和剤 2%	コロマイト水和剤(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
殺ダニ剤	10B	エトキサゾール水和剤 10%	バロックフロアブル(普)	○	○	×	2000倍,100~350リットル/10a	収穫前日まで	1回	翌日	△
	20B	アセキノシル水和剤 15%	カネマイトフロアブル(普)	○	○	○	1000~1500倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	○
	20D	ピフェナゼート水和剤 20%	マイトコーネフロアブル(普)	○	○	○	1000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
	21A	テブフェンピラド乳剤 10%	ピラニカEW(劇)	○	○	○	2000~3000倍,150~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×
	25A	シフルメトフェン水和剤 20%	ダニサラバフロアブル(普)	○	○	○	1000倍,100~350リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
		シエンピラフェン水和剤 30%	スターマイトフロアブル(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	○
	25B	ピフルブミド水和剤 20%	ダニコングフロアブル(普)	○	○	○	3000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	○
	21A 25B	ピフルブミド・フェンピロキシメート水和剤 15.5%	ダブルフェースフロアブル(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	1回	○	△
-	アシナピル水和剤 20%	ダニオーテフロアブル(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	○	○	
一	30	フルキサメタミド乳剤 10%	グレーシア乳剤(普)	○	○	○	2000倍,100~300リットル/10a	収穫前日まで	2回以内	翌日	×

注1 殺虫剤コード：薬剤の作用機作による分類で、同じコードの薬剤を連用すると感受性が低下する可能性が高くなる。

「気」は気門封鎖等の物理的効果を示す薬剤で、感受性の低下には影響しないと考えられている。

注2 防除対象

「○」：効果あり 「△」：部分的な効果あり 「×」：効果なし

注3 ミツバチの安全日数

「○」：影響なし(「薬液が乾けば影響なし」を含む)

・本表は、各県の資料及びメーカー資料を参考に安全日数を掲載した。

・通常的使用では影響がない剤であっても、薬液が乾かなかつたり、臭いが残る場合は、訪花活動に影響を及ぼす場合がある。

・低温・曇雨天が続く場合は薬剤の分解が進まず、遅くまで影響が残ることがある。

・巣門を開け、ミツバチを再導入する前には、換気を十分に図り、薬液が乾いていることを確認する。

注4 カブリダニ類への影響

日本バイオロジカルコントロール協議会資料等を参考にミヤコカブリダニ、チリカブリダニへの影響をまとめた。

「○」：影響なし 「△」：影響あり 「×」：死亡率が高く、影響が大きい